

数値公表 忌避する教委

学力危機

正答率「不適切な記載事項」

苦小牧市内で1月末に配布された、ある小学校の学校便りが、市教委の指示で2月上旬に回収された。教員が家庭訪問もする徹底ぶりだ。便りには、2012年の全国学力テストの自校、

市、全道、全国の平均正答率の数値が掲載された。教科ごとに強みや弱みの分析もされていた。

回収を指示した和野幸夫・市教育長は「児童のやる気を引き出したいのだから、1校が公表すると、『うちも』うちもで混乱し、序列化につながる恐れがある」と説明す

る。

明していた。しかし、このおわびには間違いや誤解がある。

全国学力テストで文科省は、学校が自校の、市町村が市町村全体の数値を公表することに、学校や市自身の判断に委ねてきた。道内にも、ウエブや学校便りで数値を公表している自治体や学校はある。

テストの実施要領は「序列化や過度の競争」を心配してはいるが、非開示を求めめるのは、序列化に直結する情報公開請求の場合だ。

今回は、市教委が事前に校長会で数値の公表は控えるよう伝えており、その点では、校長自身がうっかりミスだと認めた。

ただ、保護者からは「どこが悪いのかわからない」「他校と比較したわけでもない。頑張った証しとして子どもたちをほめていい」といった声があがる。

「数値は努力の結果」

道教委に文科省と別のガイドラインはない。道教委は「学校ごとの数値を比較すると、自校の結果を保護者に示すの

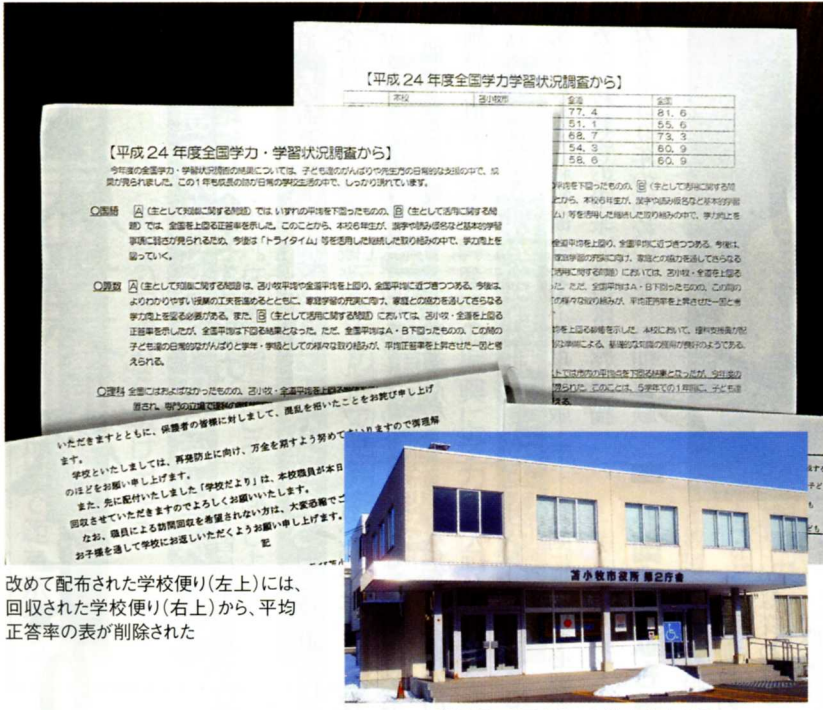
は本質的に違う」という立場だ。

鈴木重男 北海道文教大准教授は「学校教育法は学校評価の公表を求めており、国の学校評価のガイドラインでは、学力調査等の結果も公表項目だ。学校の現状を伝え、地域の協力を得るには、誰が見てもわかる示し方がいい」と、数値での公表も勧める。

しかし、数値で学力を示すことへの抵抗感は、道内ではとりわけ強い。その先頭を走る札幌市は、全国学力テストで、市全体の平均正答率も、各設問の正答率も非公表。12年の結果は、全国平均より低い領域を高いと発表した。単純な計算ミスだったが、その遠因に数値軽視の姿勢があると、言われても仕方ない。

一方、「2014年までに全国学力テストで全国平均以上」が目標だった道教委は、13年度からの教育推進計画で「17年までに全教育局で全国平均以上」という新たな目標を掲げた。

「テストの数値は努力の結果にすぎない」。退任が決まった高橋教一・道教育長は口癖のように繰り返してきた。学校関係者は、もっと真剣に、数値と向き合うべきである。



学校便りを回収させた苦小牧市教委

改めて配布された学校便り(左上)には、回収された学校便り(右上)から、平均正答率の表が削除された

校長は家庭へのおわび文書に、自校や市平均の正答率を「不適切な記載事項」と記述。「各学校や市町村の平均正答率の公表は、行わないよう文部科学省のガイドラインで示され、道教委、市教委もこれに準じている。道内で数値を公表している自治体、学校はない」と説



学校便りを回収させた苦小牧市教委

くする。校長は家庭へのおわび文書に、自校や市平均の正答率を「不適切な記載事項」と記述。「各学校や市町村の平均正答率の公表は、行わないよう文部科学省のガイドラインで示され、道教委、市教委もこれに準じている。道内で数値を公表している自治体、学校はない」と説

くする。校長は家庭へのおわび文書に、自校や市平均の正答率を「不適切な記載事項」と記述。「各学校や市町村の平均正答率の公表は、行わないよう文部科学省のガイドラインで示され、道教委、市教委もこれに準じている。道内で数値を公表している自治体、学校はない」と説

くする。校長は家庭へのおわび文書に、自校や市平均の正答率を「不適切な記載事項」と記述。「各学校や市町村の平均正答率の公表は、行わないよう文部科学省のガイドラインで示され、道教委、市教委もこれに準じている。道内で数値を公表している自治体、学校はない」と説